



2026年5月15日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 フ ル ッ タ フ ル ッ タ
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員 CEO 長 澤 誠
(コード番号 2586 東証グロース)
問 合 せ 先 管 理 部 長 野 呂 広 利
TEL.03-6272-3190

2026年3月期通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2025年5月15日に公表した2026年3月期通期(2025年4月1日～2026年3月31日)の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)と実績の差異について

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,000	百万円 400	百万円 370	百万円 300	円 銭 3.62
実績値(B)	3,142	94	126	83	0.91
増減額(B-A)	△858	△306	△244	△217	-
増減率(%)	△21.4	△76.5	△65.9	△72.3	-
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	2,549	229	234	270	4.70

2. 実績との差異の理由

売上高につきましては、国内における「アサイーの日常食化」戦略の浸透により、前期比23.3%増の3,142百万円と引き続き増収を達成いたしました。また、高付加価値商品への注力とオペレーションの効率化が奏功し、売上総利益率は41.0%(前期は37.6%)へと大幅に改善しております。これは、原材料費等の高騰局面においても当社のブランド力と価格支配力が維持・強化されていることを示すものです。

一方で、各段階利益が前回発表予想を下回る結果となりました。この主な要因は、翌事業年度以降の飛躍的な成長を確実なものにするための「戦略的な先行投資」によるものです。

具体的には、本格始動する中国を中心としたアジア輸出事業、および国内大手チェーン向けの商品導入拡大に備え、欠品による機会損失を回避するための戦略的ストック在庫を形成いたしました。これに伴い、一時的な倉庫料および物流コスト(前期比84.2%増)が増加したことが、利益を押し下げる要因となりました。

今回の費用増加は、将来の需要拡大に対する供給体制を盤石にするための前向きな布石であり、積み増した在庫は次期以降、速やかに売上高およびキャッシュへと転換される見込みです。国内市場の安定収益基盤を維持しつつ、グローバル市場への進出加速により、中長期的な企業価値向上に努めてまいります。

結果として、売上高は未達ながらも増収、利益金額では当初予想を下回るものの黒字を維持した結果となりました。

以 上